



歴史・文化

「<sup>れいじょう</sup>霊場松島と<sup>だて</sup>伊達な文化」



文化庁公式YouTubeチャンネル  
【日本遺産】政宗が育んだ“伊達”な文化  
https://youtu.be/KTQc7fmzP7E

平安時代から続く霊場として、また、多くの伊達家ゆかりの歴史的建造物がのこる松島町。松島町の歴史や文化を学びながら、未来の地域の魅力について考えてみよう。

260余りの島々が浮かぶ松島湾。島々が作り出す絶景は日本三景の一つとして数えられており、東北有数の観光地として毎年多くの観光客が訪れます。現在は仙台市から車や電車を利用し、約40分程度で簡単に訪れることができる場所ですが、かつての松島はまさに「秘境」でした。自らの足で山道を歩き、峠を越え、ようやくたどり着いた先にある松島の絶景は、人々に極楽浄土を思わせたと言われています。そのような理由から古代以降は信仰の場となり、特に中世以降には雄島を中心とした「霊場松島」が展開されていきました。平安時代、秘境とされていたこの地を京都にまで知らしめたのは、見仏上人や頼賢といった仏法をきわめた高僧たちです。見仏上人は約10年、その再来とも称えられた頼賢は22年の間、雄島にこもり修行を続けました。以降松島は、その高德にあやかろうと願う修行僧や、歌人たちの憧れの地となったのです。

仙台藩祖の伊達政宗も松島に魅了されたひとり。国宝瑞巖寺は伊達家の菩提寺として政宗が力を注いで荒廃していた寺院を再興させたもので、現在もその荘厳な姿を見せています。町内には円通院や五大堂、観瀾亭など伊達家ゆかりの史跡が数多く現存し、日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」の構成文化財にも指定されています。



瑞巖寺（ずいがんじ）



五大堂（ごだいどう）



キーワード

秘境 霊場松島 修行僧  
極楽浄土 仙台藩 伊達政宗  
伊達な文化 松尾芭蕉 日本遺産  
日本三景

代表的な探究スポット

瑞巖寺 (12ページ) 円通院 (13ページ)  
五大堂 (14ページ) 観瀾亭 (14ページ) 雄島 (14ページ)



環境

「松島湾の自然と海」



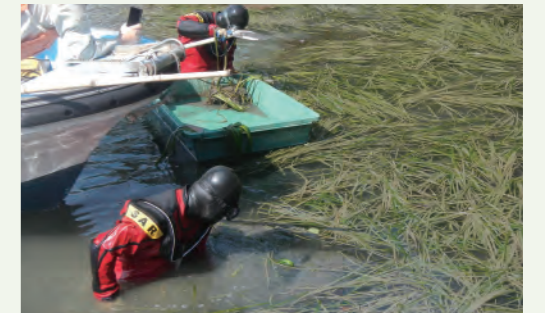
松島町公式YouTubeチャンネル  
松島湾のSDGsの取り組み  
https://youtu.be/v2WieZ7VUIQ

日本三景として多くの人々を魅了してきた絶景、そして、豊かな海の恵みのある松島。松島町の自然や海を学びながら、未来に残すべきものについて考えてみよう。

松島湾が現在の多島海の姿となったのは、氷河期以降の地殻変動による一部沈下と温暖化に伴う海水面上昇によるもので、約5千年前と考えられています。松島を京都府宮津市の天橋立、広島県廿日市市の宮島と共に「日本三景」として初めて紹介したのは、江戸時代の儒学者・林春斎でした。青い海と松の緑が作り出す絶景は、日本を代表する景勝地として今でもなお人々の心をとらえています。

松島湾は、フランスのモンサンミッシェル湾などが名を連ねる「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟しています。松島湾の美しい景観を守り、豊かな環境で育まれるかきなど自然の恵みを受けながら人々の生活が営まれていると高く評価され、2013年に日本で初めて加盟が認められました。

しかし松島湾を取り巻く環境は、2011年の東日本大震災で発生した津波により大きく変化してしまいました。代表的な例が藻場の流失です。震災前、松島湾にはアマモやアカモクなどの広大な藻場が広がっていましたが、津波によりその約99%が流されてしまいました。藻場は水質を良くするだけでなく、小魚などの生き物のすみかとなり、生態系の起点となります。2021年で震災から10年が経過しても震災前の30%程度しか戻っていません。豊かな松島湾を取り戻すため、様々な団体が協力をしながら藻場の再生活動に取り組んでいます。



再生活動に向けアマモを採取するダイバー



海中のアマモ

キーワード

松島湾 多島海 海水面上昇  
日本三景 景勝地 陸前松島 林春斎  
世界で最も美しい湾クラブ 藻場  
アマモ アカモク 生態系 かき養殖  
自然の恵み 東日本大震災 津波

代表的な探究スポット

松島湾観光遊覧船 (18ページ)  
福浦島 (19ページ) 福浦橋 (19ページ)